



2002～2003年度
R I テーマ

「慈愛の種を 播きましょう」 :Sow the Seeds of Love」

国際ロータリー会長 ビチャイ・ラタクル (国籍・タイ・バンコク)

2720地区

別府中央ロータリークラブ



例会日 火曜日 12時30分
ところ トキハ別府店 7F ぼたんの間
TEL 23 - 1111
事務所 別府市西野口町1番1号 青山通りビル3F
〒874-0931 TEL (0977) 23-9000
FAX (0977) 23-9019
E-mail: beppu4rc@fat.coara.or.jp

理事 後藤 隆
" 梅津ヤヨイ
" 村津 忠久
" 河村 貴雄

理事 森 宗明
" 宮地 一久
" 小堀 裕子

役員 会長 梶田 健治
副会長 後藤 隆
幹事 平野 英壽
会計 岩尾 昭治

SAA 鳴海 淳郎

VOL. 15 - №26
2003年1月14日

第 668 回 例 会

編集 小川 雅代

点 鐘 12:30

R . S . 四つのテスト

唱 歌 ふじの山

B . G . M . 「ホームクラシック名曲集」より
愛の喜び
愛の悲しみ
ユーモレスク 他

出席報告

委員長 中島 澄人

本	会 員 総 数	20 名
日	出 席 者 数	12 名
の	事前メイクアップ	0 名
出	理 事 会 承 認	1 名
席	出 席 免 除	0 名
	欠 席 数	7 名
	出 席 率	63.16 %
前	出 席 率	68.42 %
々	事後メイクアップ	0 名
回	理 事 会 承 認	1 名
の	出 席 免 除	0 名
訂	修 正 出 席 率	100 %
正		
12/24		

連 続 7 回
通 算 615 回 100%

・メイクアップ

欠席 後藤(健)、河村、木村、溝部
小川、津末、梅津

会長の時間

会長 梶田 健治

「生きるのが大変」とってしまう人の多くは、
「幸せ、喜び、安心、楽しさ、自信、勇気」とい
った「プラスの心」がとても弱く、「あれもこれも、
私もダメ」と考える「マイナスの心」ばかりが大
きく育ってしまっているようだ。なぜ、そんなこ
とになってしまったのだろうか。

「生きるのが大変」と思う人の多くは、子供の
頃、周りの大人たちから、「人はこんなふうに生
きるべき」という理想論を押しつけられて育っ
てきていることが多い。大人たちが「立派な子供に
育てるために」と思って言ったこの言葉の裏には、
実は「理想の生き方をしない人は、生きる価値が
ないダメな人間」というマイナスのメッセージが
隠されている。そのため、感受性の豊かな子供ほ
ど、知らず知らず裏に隠されている「ダメ」とい
うマイナスのメッセージばかりを吸収し、「この
生き方も、あの生き方も、その生き方もダメ」と、
「心」の中や「周りの世界」を「ダメ」というマ

イナス感情でいっぱいにしてしまい、「生きるの
が辛くなる」のだ。

不幸にして、「プラスの心」を十分に育てても
らえなかった人は、今からでも遅くない。自分が
もっている「マイナス」に釣り合う量の「プラス
の心」を育てる必要がある。その方法は、今まで
自分が「あれも、これも、それもダメ」と否定し
てきたことに対して、「これも、あれもOK、世
の中に不要なものは何もない」ということだ。と
ころが、子供の頃から、マイナス思考を強く叩き
込まれた人ほど、「これも、あれも、なんでもあ
り...って、考え方は、人間を甘やかして、墮落さ



せるダメな考え方じゃないか！」と思ってしまう。
そのため、まず、「これもあれもOK」という「プラス思考に切り替える」という最初の段階そのものが、怖くてできない。そればかりか逆に、「立派になるためには、こうならなくちゃダメ。あれもできなくちゃダメ」と自分自身に対して、「ダメダメ攻撃」をすることで自分を成長させようと躍起になりがちだ。そのため、マイナスを増やすばかりで、ますます慢性プラス不足になってしまうのである。

私たち自身も、辛い時、落ち込んでいる時、自分の心をじっと見つめていると、必ずどこかで「ダメ」と言っているものだ。そんな時、心の中の「ダメ」を「OK」に変えてみよう。きっと、心は楽になるに違いない。

■ 幹事報告 幹事 平野 英壽

—— ロータリー理解推進月間 ——

1. 本日の卓話

『ロータリーの初期の歴史について思う』

鳴海 淳郎 会員

2. 大分県下クラブ奉仕セミナーのご案内

日 時 平成15年2月23日(日)

12:30~受付

13:00 点鐘

16:00 閉会点鐘

場 所 別府大学

出席義務者 クラブ奉仕委員長

ロータリー情報委員長

会員増強委員長

登 録 料 無料

3. 第7回定例理事・役員会報告

(H15.1.7 18:10~ 於:ゆめさき 6名出席)

報告事項

(別府市内4RC次年度会長・幹事会

H14.12.16 於:竹の井ホテル)

1) 2003-2004年度「斉藤 和ガバナー公式訪問合同例会」日程の件。

日 時 平成15年8月20日(水)

合同例会 12:30~13:30

会長・幹事懇談会(別府中央RC)

14:00~

場 所 ホテル白菊

ホスト 別府中央RC

審議事項

1) 2002-2003年度後期納入金の件。 了承

2) 宮地一久会員理事会承認延長の件。

1ヶ月の延長 了承

3) 2月の予定

2月11日(火) 建国記念日の為 休会

2月18日(火)

「家族週間に因んでオープン例会」と

「ロータリーの創立記念日、

世界理解と平和週間に因んで」

4. 例会変更のお知らせ

別府東RC 1月16日(木)の例会は、例会場の都合により 同日12:30~別府ホテル清風に場所変更

津久見RC 1月21日(火)の例会は、ライオンズクラブとの合同懇親会の為 同日18:30~津久見市民会館第3会議室に時間・場所変更

竹田RC 1月28日(火)の例会は、家族新年会の為1月24日(金)18:30~に日時変更

佐伯RC 1月29日(水)の例会は、佐伯MARINERCとの合同例会の為同日18:30~割烹池彦に時間・場所変更

5. お祝い

会員誕生日

森 宗明会員(1月16日)

記念品をお渡し致します。

佐藤 民子会員(1月16日)

ご夫人誕生日

桜田喜代子さん(1月14日)

ご自宅にワインが届きます。

6. 次週の予定

『会員卓話』 小川 雅代 会員

7. 本日の配布

週報667号

ロータリーの友1月号

「ロータリーの初期の歴史について思う」

卓話資料(R情報委員長:鳴海淳郎)

12月の例会時に回覧しました「盲導犬基金」への募金は、益金が3RCで35,657円になりま



した。又、別府楠港跡地での“ベッパクリスマス Hanabiファンタジア”会場にて実施されたバザーの売上は162,899円となりました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

アフガニスタンへの100円募金キャンペーンの当クラブ協力金は、4,800円となりました。別府市内4クラブ総額で28,000円になるそうです。皆様のご協力に感謝しご報告致します。

スマイルボックス 委員長 小堀 裕子

○ 栳田会長

家内の誕生日のお祝いありがとうございます。

○ 鳴海会員

新年宴会は医師会に招待されていましてので当クラブは残念ながら欠席しました。新年早々当クラブのホームページも公開されたことでもあり、大いにはりきってやりましょう。

○ 森会員

こいつあ春からエンギがイイワイ!! と思うことがいくつかあります。今年で四十九才になります。佐藤民子さんと同じ誕生日、これも何かのご縁ですね。

○ 村津会員

今年の一気登山大会は4月13日(日)です。それに向けての諸々の準備が始まりました。成功を祈りスマイル。

ゴルフの初打ちを、一昨日コーラスの仲間達と行いました。スコアはメタメタですが、心配していた膝・腰共にどうにか無事に歩き通すことが出来ました。ヤレヤレでスマイル。

○ 平野会員

今日は人数が少ない「さびしい」
せっかくはりきってきたのに

○ 上妻会員

私にとっては12月10日以来のこの会場における例会であり体操でした。あらためて本年もよろしく願います。

○ 大島会員

新年会ありがとうございました。

今年は去年より不景気の波がおしよせてきている感じがします。しかしながら、平和な日本で今、生かされてる事に感謝してスマイルします。

○ 佐藤会員

ゆめさきでの初めての新年会、風邪をひいているのもわすれて楽しかったです。

又二次会アルバトロスを使って下さって有難う御座居ました。

○ 小堀会員

今年はとてもインフルエンザが流行しているそうです。私は翌年の暮に、予防注射をしました。おかげで娘や従業員は、インフルエンザにかかって、次々とうつつていますが、私はおかげで元気です。

元気に仕事出来ることに感謝してスマイル!!

卓 話

ロータリーの初期の歴史について思う

鳴海 淳郎

私がロータリーに入会した当初は、先輩にすすめられるままにロータリーの勉強会である「千種会」に入会していろいろ勉強したものです。

その時の主な参考書の一つに小堀憲助著「ロータリー発生史」(昭和47年1月27日改訂版)があり、ロータリー草創期の史実はこれに基づくものでした。

その後、地区協議会やIGFに幾度となく参加して色々刺激され、ロータリーの友やロータリアン誌によってフレッシュな知識を習得しました。

また、これと平行してポール・ハリスの自伝であるMy Road To Rotary「ロータリーへの私の道」や、同じくポール・ハリスの著書であるThis Rotarian Age「ロータリーの理想と友愛」(米山梅吉・訳)ハロルド・トーマス著Rotary Mosaic「ロータリー・モザイク」(松本兼二郎・訳)などを座右において勉強しました。

しかしながら、その後ポール・ハリスの初めての伝記であるThe First Rotarian「ポール・ハリス」がジェイムスP・ウォルシュによって著され、日本語にも訳されて1980年11月に刊行されましたが、これにはポール・ハリスを中心としたあらゆる資料が綿密に用意され、それによってロータリーの初期における色々な史実をこまかに知ることが出来ました。

次に、その2、3を述べてみたいと思います。

1. ロータリーの発祥について(4人はどうして集ったのか?)

わたしは2000年1月、ロータリー理解推進月間を記念して小著『ロータリー物語』を書き、その中でロータリーの発祥についてかなり詳しく述べましたが、当時のシカゴは世紀の変わり目で、



産業の発達著しく、人口は爆発的に増えましたが、一方において労働争議が絶えず、とくに世紀末のシカゴはまさに沸き返る状態を呈していました。

このような不安定な社会的、金融的情勢は、弁護士にとっては最高の働き場所を提供してはいたものの、乱雑に拡張した大都市の生活はテンポが速く、追いつくのが大変で、ポール・ハリスはある意味で孤独でした。多くの知り合いがいるとは言え、本当に親しい友達はいなかったのです。

彼の求めていたものは小さな地域社会の隣人愛と、家族のような親しみやすさでした。彼の理想は素朴で平穏無事な村の生活と、村人達の打ち解けた真の友情と相互扶助の精神を、この広大な都市の社会環境に移し変えることでした。

そこで、最も親しい数人の知人に慎重に打診して話し合った結果、これがロータリーの誕生につながっていったのです。

集った4人ともみな一様に都会生活の孤独に辟易し、彼等が後にしてきた村の連帯感あふれる生活に郷愁を覚えたのでした。それは少年時代の温かい交友の再現であり、交友を基にした集まりはまさに砂漠の中のオアシスとしての価値がありました。

ポール・ハリスは回想録の中で、ウォーリングフォードの家とその周辺の美しい峡谷を詳細に描写していますが、牧歌的な自然の中に育まれた村人達の親密さ、温かさ、仲間付き合いは他に類をみないものでした。

以上のことから、『ロータリーのルーツはパーモントという緑の山の谷間に深く根ざしている』ということが出来ませんが、ポール・ハリスは『ロータリーは、私が少年時代に育ったニューイングランドの人々の特性とされる、寛容と善意と奉仕の精神から生まれたものである。』と言っています。

要するに、ロータリー発祥の基本的観念はFriendshipにあったわけです。

「ロータリーの誕生について」の一般的見解

今から95年前の1905年、そのころ経済恐慌で人心の荒れずさんでいたアメリカ社会、特にシカゴの状態を憂えた、青年弁護士ポールP.ハリスが、3人の友と語らって、2月23日、第1回の会合を開いたのが、ロータリ

ークラブの誕生であります。

(ロータリーの友；第48巻、第7号、2000年)
20世紀初頭のシカゴの街は、著しい社会経済の発展の陰で、商業道德の欠如が目につくようになっていました。

ちょうどそのころ、ここに事務所を構えていた青年弁護士ポール・ハリスはこの風潮に堪えかね、友人3人と語らって、お互いに信頼のできる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたい、という趣旨でロータリークラブという会合を考えました。

(ロータリーの友；第50巻、第7号、2002年)

そこでわたしは、前述の見解から、上記、を次のように書き改めてはどうかと思う次第です。

…そのころ経済恐慌で人心の荒れずさんでいたアメリカ社会、特にシカゴに友愛の心を求めた、青年弁護士ポールP.ハリスが…
世界最初のロータリークラブは1905年2月23日弁護士ポールP.ハリスによって米国イリノイ州シカゴにつくられました。その頃、ものすごい勢いで発展している大都会の生活に追われ、他人のことなど考える余裕のない利己主義横行の時代に、心の友を得ようと4人が集ったわけであります。

以上の見解は、Official Directoryに掲載のA Brief History of Rotary の中の次の文章で明確にされています。

The first Rotary club in the world was organized in Chicago, Illinois, USA., on 23 February, 1905, by Paul P. Harris, a young lawyer, who gathered together in a spirit of friendship and understanding a group of men, each of whom was engaged in a different form of service to the public.

つまり、友愛の心でお互いに理解し合うために集り、それぞれが違った形で社会に奉仕することにしたのです。 次号につづく

なお、卓話「ロータリーの初期の歴史について思う」は医療法人社団鳴海クリニックホームページアドレス<http://www.narumi-clinic.jp/> ロータリー探究でござんになれます。